

▼ 受賞者一覧 (敬称略)

最優秀賞		
せきね 関根	かなえ 湊笑	月舘学園小 6年
はしもと 橋本	りお 理央	松陽中 1年
優秀賞		
さとう 佐藤	たいせい 大暉	堰本小 6年
たかの 高野	いっせい 一晴	小国小 6年
はが 芳賀	あやか 彩風	伊達中 2年
ながい 永井	みお 美緒	霊山中 3年

優良賞		
さとう 佐藤	あおい 葵	伊達東小 5年
つだ 津田	ともき 倫希	大田小 6年
せい の 清野	の あ 希空	保原小 5年
えんどう 遠藤	はな 花奈	掛田小 6年
とがし 富樫	ゆうせい 優成	伊達中 1年
おの 小野	たすく 将	伊達中 3年
おおかわら 大河原	ちはる 千暖	梁川中 2年
ほそだ 細田	かみん 果音	桃陵中 2年

佳作		
こやま 小山	まお 真桜	伊達小 5年
さいとう 斎藤	はるき 悠生	伊達東小 6年
みやぐち 宮口	りゅうせい 隆成	上保原小 5年
たかの 高野	まな 真奈	柱沢小 6年
いしかわ 石川	ふうな 楓菜	梁川中 1年
かんの 菅野	あい 愛	霊山中 2年
おおこうち 大河内	みずき 瑞希	月舘学園中 1年
さいとう 齋藤	だいち 大智	月舘学園中 3年



▲受賞作品をウェブで読む

# 伊達市民憲章作文コンクール

テーマ「そだてましょう 支えあいと思いやりの気持ちを」

伊達市民憲章作文コンクールは、平成 29 年度から実施しており、今年度で 8 年目を迎えます。市内の小学 5、6 年生と中学生を対象に作品を募集しました。小学生の部 165 点、中学生の部 267 点の応募があり、11 月の審査会で 22 点の受賞作品が決定しました。

応募された作品はどれも素晴らしく、伊達市をより良くするために自分にできることを一生懸命考えている作品が多くありました。最優秀賞に輝いた作品をご紹介します。

12月14日⑤の表彰式の様子▶

☎ 総務課総務係 ☎ 575-1239



## 「思いやりの種を私から」



中学生の部  
最優秀賞



松陽中学校 1年  
はしもと 橋本 理央 さん

私には、もうすぐ百歳になるひいおばあちゃんがいます。自宅で生活しています。ただ足が悪いので、杖をついて歩いており、一人できないことも多くあります。そのため、デザイナーに通っていて、職員の方が手助けをしたり、私の祖母や親せきの人が身の回りの手伝いをしたりしています。ひいおばあちゃんの家に行くと、デイサービスでの出来事や楽しい話をたくさんしてくれて、いきいきとして見えます。

私はこの夏、学校での福祉体験に参加し、福祉施設でのボランティア活動と高齢者疑似体験を行いました。福祉施設では、入居者の方と体操をしたり、歌を歌ったりしました。また、職員の方にリネン交換を教えていただき、実際に入居者の部屋で交換をしました。汗だくで肩が痛くなりました。とても大変でした。この日の体験で、職員の方は、直接入居者と関わることばかりではなく、入居者が生活しやすいよう、陰で様々なサポートをしていることがわかりました。「入居者のために」と言っていた言葉がとても印象に残って

います。また、高齢者疑似体験では、重い物を身につけて階段の上り下りです。実際にやってみると、介助者がいても途中で踏み外さないかと不安や恐怖が襲ってきました。介助者がいたので少しは安心でしたが、これももし一人だったら、と思うととても怖くなりました。この体験を通して、今までわからなかった高齢者の大変さがわかりました。今回は短い時間での体験でしたが、これが日常だと思えば、これが日常だと思えば、ひいおばあちゃん

の顔を思い出しました。いつも明るいきいきとした顔を見えますが、実際はとても大変で不自由な思いをしていたのだと感じました。ひいおばあちゃんに会ったときには、今回の体験で感じたことを思い出し、少しでも支えになりたいです。福祉体験やひいおばあちゃんとの関わりを通して、誰もが明るく暮らせる伊達市にするためにはどうすればいいか考えました。私は身近な人を支えることから始めたいと思います。思いやりの心を持ち、どんなときも手を差し伸べられる人になりたいです。一人一人が思いやりの心を持ち、お互いに支え合えば、それがやがて大きな花となります。年代問わず全ての人々が幸せだと感じ、いきいきと生きていける伊達市がこれからの続くよう、思いやりの種を私からまいていこうと思います。



小学生の部  
最優秀賞



月舘学園小学校 6年  
せきね かなえ 関根 湊笑 さん

## 「響け太鼓のリズム」

「霊山太鼓の練習会に行くぞ。」  
父が突然言いました。  
「私は、行かない。」  
と、小さな声で言ってみました。児童クラブから帰宅したら、ねるまでの時間は短くて貴重なので、好きなことに使いたいと思っていたのにと、腹立たしく思いました。  
「どうせ、動画見るだけだべ。毎週水曜日はノーメデイアデーだ。湊笑も行くぞ。」  
父は、私の言葉が聞こえていたようで、勝手なことを言っています。納得はできませんでしたが、平和主義の私はあきらめました。

練習会場には、大太鼓や小太鼓が準備されていて、誰が叩いているのか太鼓と、笛の音色が響いていました。なんだかお祭り会場にいるみたいで、イライラしていた私の気持ちを浮き立たせてくれました。軽快なリズムにひたついていると、あんな風に叩いてみたいなあと思ってしまった。  
霊山太鼓は覚えることが多くて、なかなかうまくいきませんでした。前から習っている子たちのように格好良く叩けなくて、つまらないな...と思っていると、指導者の方が、

「もう一回、叩いてみっぺ。」  
と言って、何回も練習に付き合ってくれました。くり返し何回もリズムを聞いて、叩いて、  
「スツタリンコ リンコタリンコ スツタリンコ リンコタリンコ。」  
と、リズムを口ずさみしました。  
二か月間の練習会は終わりましたが、続けて練習に來てもよいことになり、私は今も練習を続けています。叩き始めてから五か月が経ち、だいぶ上達してきました。

伊達市の地域芸能の一つである霊山太鼓を覚えて、伊達市を元気にしたいなと思っています。今まで大事に伝統を育ててくれた人に代わって、私が伝統芸能を育てていかなければならないという気持ちも芽生えました。  
今年の霊山太鼓祭りは、台風の影響で中止となりました。練習してきたことを、お客さんの前で発表できなかつたことは残念だけれど、来年に向けて頑張ろうという気持ちがわいてきます。きっと上達した私を見てもらえるはずですよ。  
たくさんの霊山太鼓に関わる地域の方が、霊山太鼓を通じて、私を支えてくれています。最近では、何度も同じ練習に付き合ってくれた指導員の皆さんに感謝の気持ちがあるので、私も自分より年下の子たちに、教えられる先輩になりたいと思うようになりました。そのため、練習を頑張りたいです。  
年齢や性別に関係なく、太鼓をたたいて笛を吹いているときは、全員真剣な表情ですが、叩き終わり、笑顔に変わる瞬間が好きです。みんなで心をつなげて、何かをする体験は、動画やネットの世界にはない私の充実したリアルな世界です。  
来年は、桃の郷伊達市の空に響け霊山太鼓。